

(10) 情報デザインに配慮した自閉症児向けスケジュールの開発

川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科 ○岩藤 百香
 京都橘大学 都市環境デザイン学科 松本 正富
 川崎医療福祉大学 医療福祉学科 小田桐早苗
 川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科 青木 陸祐
 川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科 真鍋 克己

【要旨】

自閉症児向けスケジュールに着目し、TEACCHプログラムを実践する指導者の作成したツールにデザイン学の視点からアプローチを加える事で「よりユーザーにとって分かりやすいスケジュール」のデザインフォーマット開発を試みた。思春期の自閉症女児8名が集まるサークルでの保護者・指導者からのヒアリングに加え、実際の活動に参加して観察を行った。その後、現在のツールに対する考察を経てデザイナー間での協議および段階的な試案を作成し、最終案について指導者を交えた有効性の検討を行った。そのデザイン提案の過程について以下に纏める。

- (1) 見通しを立てることが苦手なユーザーに対し、自分は「全体の流れの何番目にいるのか」「今（時間）」「どこで（場所）」「何をしているのか（作業）」という情報をより明確に伝えるため、TEACCHプログラムで有効とされている絵カード「Drops」を参考にユーザーが認識・理解しやすいイラストやアイコン、参加者の顔写真といった視覚情報を

使用した。

- (2) 情報の集約と持ち運びの利便性を考慮し、A4両面2つ折りの形態を提案した。
- (3) 左面に簡易なスケジュールの内容を、右面に詳しい補足の情報を配置してユーザーの理解レベルによって伝える情報量を調整できる機能を持たせた。
- (4) 「作業の通し番号」「作業のタイトル」「時間」「場所」という重要な情報についてはフォントの大きさや配色、アイコンの追加など、補足情報と比べてより目立つための要素を加えることで目線を誘導し、視覚優先の特性を持ち、文章を読む事が苦手なユーザーが必要な情報にたどり着くまでのストレス軽減を図った。
- (5) 使用されている文字情報については、「はじまりの会」などの言葉を、現場で指導者が発する「はじまりの会をします」といった話し言葉に統一し、スケジュールが行動のための指示ツールであるという認識を持ちやすくした。